

ハンググライダーディング
日本選手権
I N紀の川スカイグランプリ 2017

大会・競技規定書

主 催 紀の川スカイグランプリ大会実行委員会

日 程：2017年2月9（木）～2月12（日）

大会規定

この大会規定は、JHF ハンググライディングルールブックと併せて解釈される。この大会規定に明記が無い項目については、JHF ハンググライディングルールブックが適用される。

【参加資格】

1. JHF フライヤー会員登録が期間中有効で、かつ JHF クロスカントリーパイロット技能証を有し心身ともに健全で、競技参加に支障のない者。但し、競技委員長が認めた外国人選手の場合、JHF パイロット技能証と同等の技能を有し、日本国内で有効な第三者責任賠償保険（保険金はフライヤー登録と同等以上）に加入していることを条件とする。
2. 所定のデジタルスカイスポーツ無線機を所有すること。
3. 心身共に健全で、パイロット個人の意志で飛行できる者。

【フライト失格】

1. 雲中飛行、空中接触等危険なフライトと判断した選手や、故意のテイクオフ失敗、競技進行を妨げる行為（テイクオフディレクターの判断）をした選手は、そのフライトを失格とする。
2. 高圧線上をフライトする場合、その高圧線上から100m以内を飛行したと大会関係者が判断し競技委員長が認めた場合その日のフライトを失格とする。

【事故及び損害賠償】

1. 大会期間中のフライトは選手自らの判断で飛行するものとし、万一事故等が発生した場合、紀の川フライトパークエアリアルールに則り本人の責任において対処すること。なお、経過を大会本部に報告すること。
2. フライトにおいては選手自らの判断であり、事故発生に当たってその責任は選手個人が負うものとし、大会主催者、大会役員、大会関係者、地元関係者並びに、他の何人にもその責任の追及、責任の転嫁や、損害賠償を請求してはならない。

【テイクオフ方法】

1. テイクオフは、フリーテイクオフを用いる。テイクオフにはセットアップゾーン、スタンバイゾーン、テイクオフゾーンと3つのゾーンを設け選手は順番に各ゾーンを通過しテイクオフしなければならない。また、スタンバイゾーン、テイクオフゾーンは定員を定める。
(改定) 2011競技規定によりシード選手のテイクオフ優先権を廃止する。

【セットアップゾーン】

1. グライダーのセットアップはこのゾーンに限り出来るが、役員の指示があるまでセットアップしてはならない。
2. グライダーのセットアップ場所は、前日の成績順に指定する。但し同順位のセットアップ場所は前年度ハンググライディングシリーズ順位及びパイロットナンバー順により決定する。
3. 成績上位の選手は、下位の選手よりも先にスタンバイゾーンに進入できる権利を持つ。
4. セットアップゾーンの出口が混雑している場合は、スポーツマンシップの精神に則り、譲り合いの気持ちでスタンバイゾーンに並ばなければならない。

【スタンバイゾーン】定員5名

1. テイクオフゾーンに進むためにはスタンバイゾーンを通過しなければならない。スタンバイゾーンは一列になり、先頭の選手から順次テイクオフゾーンに進まなければならない。
2. スタンバイゾーンの選手全員がテイクオフゾーンへの進入を拒否した場合、その選手全員がスタンバイゾーンに留まることが出来るが、定員が超過した場合、超過した人数分だけ先頭よりテイクオフゾーンに進まなければならない。
3. スタンバイゾーン内の総ての選手が留まっていたが、その中からテイクオフゾーンへの進入希望者がでた場合、先頭よりその選手までが順次テイクオフゾーンに進まなければならない。
4. スタンバイゾーンからセットアップゾーンまで列がのびた場合、セットアップゾーン規定3に従う。

5. 一度スタンバイゾーンに進入した選手及びテイクオフゾーンへの進入を希望した選手は、原則的にキャンセルは出来ない。尚、キャンセルした場合その日のフライトをキャンセルしたものとみなす。

【テイクオフゾーン】 各定員3名

1. テイクオフゾーンでは1列になり順番の変更をしてはならない。
2. 前の選手がテイクオフしてから次の選手は2分以内にテイクオフしなければならない。但し物理的に危険で、役員が一時的にテイクオフクローズした場合は除く。
3. テイクオフゾーンで1度も選手が複数にならなかった場合その選手はフリーテイクオフとなるが複数になった時点でその時点から2分以内にテイクオフしなければならない。
4. 何らかの理由でゲートクローズになった場合、先頭のパイロットはゲートオープン後2分以内にテイクオフしなければならない。
5. 一度テイクオフゾーンに進入した選手は、原則的にキャンセルは出来ない。尚、キャンセルした場合その日のフライトをキャンセルしたものとみなす。

【補足】

1. スタンバイゾーン、テイクオフゾーンへの割り込み、または順番の変更は出来ない。
2. 上記ゾーン規定を守らない選手はその日のフライトを失格とし、その行為が進行を妨害したと判断した場合は、大会失格とすることがある。
3. テイクオフではディレクター、役員の指示に従わなければならない。

【距離の測定】

1. ゴールした選手のフライト距離は、テイクオフから各指定パイロン間、そしてゴールまでの距離を加算した距離である。
2. ゴールできなかった選手の距離は、最終通過パイロンまでの距離合計とする。ただし指定された紀ノ川河川敷に着陸した場合に限りベストポジションが認められる。

【安全規定】

1. 全てのフライトは、選手個人の責任において行わなければならない。
2. 選手は、心身ともに競技参加に支障の無いよう、健全でなければならない。
3. フライトは、使用機体の運用限界以下で行わなければならない。
4. 電線、建築物、人混みの上空では50m以上の高度を持って飛行すること。
5. 高圧線付近を飛行する場合、高圧線から100m以内だと磁場の引きつけを起こす場合があるので、100m以上の安全間隔を持って飛行すること。
6. エリア内の飛行禁止空域をフライト前に熟知しておき、飛行禁止区域に進入してはならない。

【飛行中ルール】

1. 同一サーマルでは、上の機体は下でセンターリングしている機体の旋回方向に合わせること。
2. 先にセンターリングしている機体がいるサーマルへ入る場合、必ずその旋回方向を合わせること。
3. 同高度でセンターリングしている機体は、旋回を中心を合わせるようにすること。
4. その他優先権等は、航空法に準ずる。
5. テイクオフ前の旋回方向については、当日選手ミーティングで決定する。
6. 着陸で同時侵入になった場合、高度のある機体が高度の低い機体の後方を飛行すること。

【選手の運搬及び回収】

1. テイクオフまでの登頂は、各自で行うものとする。但し、登頂方法が無いものは、決められた場所、時間に出発する主催者が用意した車両にて行う。
2. アウトランディングした選手の回収及び、選手の移動は各自で行うこと。但し、実行委員長が必要と認めた場合、回収用車両を運行する。

【航空法の遵守】

1. この規定に定めない飛行場のルールは、航空法を遵守すること。